

地域の概要

1. 基礎データ

山形市
 人口：247,891人（令和2年11月現在推計人口）
 面積：381.58平方キロメートル
 過疎地域等指定：山村(旧東沢村、旧高瀬村、旧山寺村)
 高齢化率：29.6%（令和2年4月現在）
 協議会開催数：3回
 (R2.4 ~R3.1)

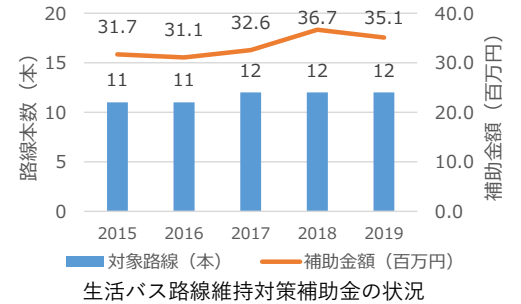
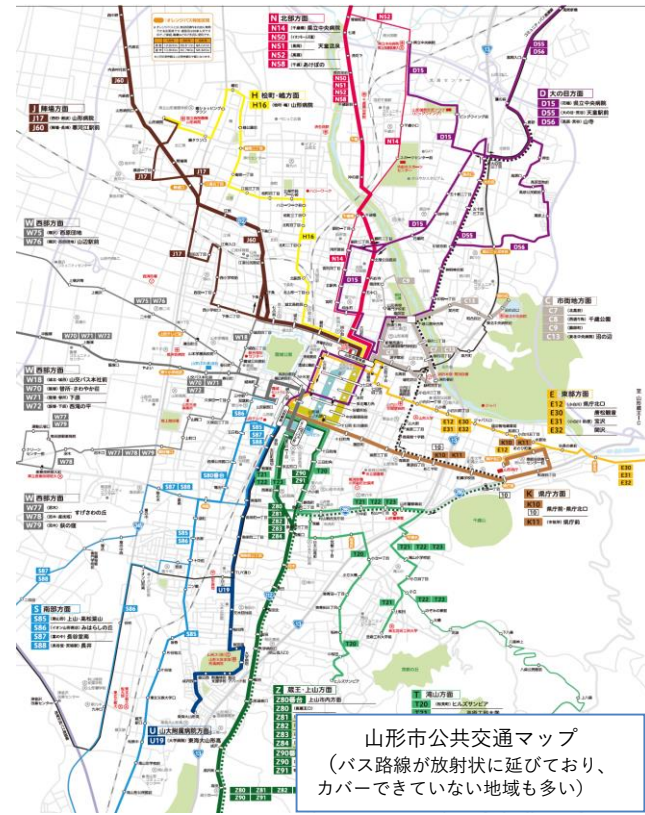
2. 公共交通の概況

- 【鉄道】
 運行：東日本旅客鉄道(株)
 路線：在来線3路線、JR山形新幹線
- 【乗合バス】
 ①路線バス 運行：山交バス(株) 路線：48路線
 ②コミュニティバス 運行：山形市 路線：4路線
- 【デマンド型乗合タクシー】
 運行：大郷明治交通サービス運営協議会
 エリア：中山町～大郷・明治地区～山形市中心部
- 【タクシー】
 運行：法人11社、個人2社、1人1車制の個人58社
- 【スクールバス】
 市運行1路線(小・中学校)、その他大学等で運行
- 【福祉有償運送】
 特定非営利活動法人7社で実施
- 【患者送迎バス】
 山形徳洲会病院、山形済生病院等で実施
- 【商業施設の送迎バス】
 イオン山形北店、食品館256などで実施

鉄道と路線バスが中心的な公共交通機関として整備されているが、コミュニティバス等でカバーできない交通不便地域も多く、市域及び広域的な公共交通の在り方を検討しながら、持続可能な公共交通ネットワークの形成を図ることが必要となっている。

3. 公共交通の問題点

- (1)各地域の特性や公共交通に関するニーズを整理し、鉄道・バス・タクシー・その他の交通資源を一体とした市域全体の公共交通の在り方や、まちづくりとの連携、利便性の高い持続可能な公共交通ネットワークの構築が必要。
- (2)近年、広域的な移動ニーズも生まれており、広域的なネットワークの構築が必要。
- (3)鉄道駅を交通結節点として地域公共交通ネットワークの拠点として位置づけていくために、必要な機能(バス・タクシーの乗入れ、乗場等のバリアフリー等)を強化していく必要がある。
- (4)路線バスの赤字路線への市の補助が増加傾向にあることからバス路線の再編など効率化について検討していく必要がある。
- (5)郊外のコミュニティバスの運行内容の見直しや利便性の向上等による利用促進を図る必要がある。



利用者が減少しているバスの一つであるコミュニティバス高瀬線

※記入する際、枠の大きさの変更及び次頁に作成することも可能とします。

山形市公共交通活性化協議会

調査内容

【事業評価時点で完了している内容】

1. 地域社会に関する現状整理
2. 地域の公共交通に関する現状整理
3. アンケート調査
4. 移動実態の現状整理、地域住民のニーズ把握
5. 現計画の評価及び検証
7. 協議会開催(2回)

【今後予定している内容】

6. 山形市地域公共交通計画(仮称)(案)のとりまとめ(2月中)
7. 協議会開催(残り1回)

調査結果概要

1. 地域社会に関する現状整理

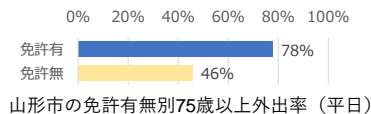
- ・ 高齢者は市内に広く居住
- ・ 蔵王、山寺、中心市街地の観光移動ニーズがある
- ・ 自動車保有率は東北6県の県庁所在地の中で一番高い

2. 地域の公共交通に関する現状整理

- ・ 鉄道の利用者数は減少傾向、分担率は全体の1%
- ・ 路線バス利用者数は近年横ばい又は微増。一方で赤字路線への補助金額は年々増加
- ・ コミュニティバスはベニちゃんバスを除き利用者数は減少、運行経費が市の大きな負担に

4. 移動実態の現状整理、地域住民のニーズ把握

- ・ 高齢者の移動における自動車の割合は65歳以上で7割
- ・ 免許非保有高齢者の外出率は免許保有者と比べて低い
- ・ 高齢者・障害者・子育て世代・学生の、通院・買物の移動に利用したいニーズが多く、これら日常生活の移動支援が必要



3. アンケート調査(バス利用者アンケート結果)

- ・ 路線の利便性向上に向けたニーズを把握するため路線バス利用者のアンケート調査を実施(901票配布、360票回収(回収率・40%))

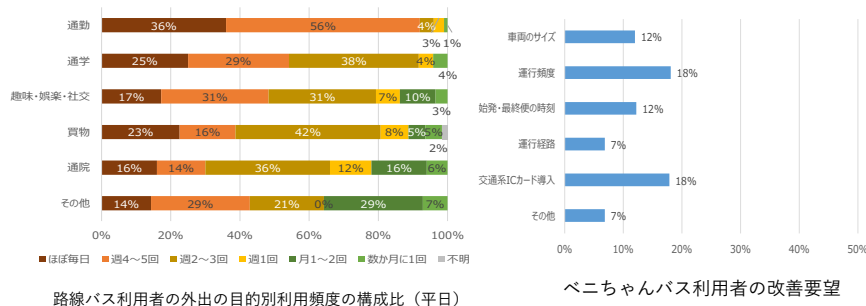
【外出目的と利用頻度】

買物目的では高頻度で路線バスを利用している。バスを普段から利用する市民にとっては、バスは非常に重要な移動手段となっていると言える。

- ・ 市中心部を循環するベニちゃんバスを対象に、移動ニーズや中心市街地での回遊・消費活動との関係について把握するため、利用者のアンケート調査を実施(432票配布、409票回収(回収率・95%))

【改善要望】

「運行頻度」「交通系ICカード導入」が比較的多い。これらは、39歳以下の比較的若い世代からの要望が多い。



<課題等>

- ・ 高齢化の進展を踏まえ自家用自動車から公共交通へシフトを図るとともに、公共交通の利用増に向け、ニーズへの対応、利便性と利用満足度の向上を図ることが必要。
- ・ 将来に渡る公共交通の持続的発展のために、官民の適切な役割分担をしながら、効率的・効果的な公共交通ネットワークを整備することが必要。

<ネットワークビジョン(素案)>

課題等を踏まえ、山形市の特性、都市計画、既存の公共交通資源を総合的に勘案し、目指すべき公共交通ネットワークの在り方として、「交通軸」の形成と、「交通結節点」を整備する。これにより移動ニーズにきめ細やかに対応した効率的で効果的な公共交通の実現を目指す。

ネットワークの構築は概ね15年後の2035年の完成を目指す。本計画の計画期間(2021年~2026年)ではネットワークの実現に向け当面実行すべき具体的な方針・施策を示す。

<基本方針(素案)>(5か年)

- ①: まちづくりと連動した公共交通ネットワークの構築
- ②: 徒歩や公共交通などで楽しめる市街地の移動環境づくり
- ③: 公共交通による生活実態に即した身近な移動の支援
- ④: 公共交通のわかりやすく・使いやすい利用環境の形成

今後の取組みについて

【スケジュール(予定)】

- 2月下旬 第3回協議会開催
- 3月上旬 計画策定
- 3月中旬 議会に対する報告
- 3月下旬 計画公表

【地域の交通の目指す姿】

ネットワークビジョンで掲げる将来像の実現に向け、基本方針に応じた各施策・取り組みを庁内・関係機関と協議・検討し、計画に反映させるとともに、目標値の設定を行う。